

第1章 青年期と恋愛

青年期における重要な発達課題として、エリクソン(1973)が掲げた「自我同一性の確立」がある。青年期における異性との交際は、安定した自己認識、自我同一性の確立によって意味のあるものとなり、また逆に自我同一性、自己認識の確立に大きく寄与するという意味で、きわめて大きな発達の意義をもつ。(富重,1998)

第2章 嫉妬感情

嫉妬には、エディプス・コンプレックスに代表される親子関係における子供の嫉妬、あるいは教師をめぐる生徒間での嫉妬、恋愛関係における嫉妬など様々なものがある。

恋愛関係における嫉妬は、「恋人、配偶者など、特定の他者との既存の望ましい関係が、実際の、あるいは想像上の第三者(ライバル、恋敵)によって脅かされるときに生じる不快な感情」と定義される(深田・坪田 1990)。

第3章 調査

【目的】本研究では、恋人との関係が絶たれる以前の状況を用いて、拒否の程度が自尊心喪失への程度、価値ある関係を失うことへの恐れ、嫉妬などにどのような影響を与えるのか。また、自尊感情や愛情の強さ、交際期間や過去の恋人の有無によって嫉妬に影響を与えるのか、男女での差を中心に調べることを目的とする。

【方法】淑徳大学生 297 名を対象に質問紙法で実施した。尺度は、自尊感情尺度、Love-Liking 尺度、場面想定法を用いた。

【結果】相手から拒否されたと思う程度に応じ、価値ある関係を失うことへの恐れ、自尊心喪失の恐れ、怒り、不安、嫉妬の変化がほぼ対応していた。性別で見ると、女性は男性よりも嫉妬を強く感じるという結果が得られた。男性は愛情が強い相手に嫉妬を感じるのに対し、女性は愛情の強さとは関係なく嫉妬していた。過去の恋人の有無や現在の恋愛状況から、嫉妬への性差は見られなかった。しかし全体では、交際経験がある人(現在または過去)のほうが嫉妬を感じやすい傾向があり、自尊感情と交際の継続期間は、嫉妬とは関係がみられなかった。

【考察】結果から、嫉妬の原因として考えられてきた、価値ある関係を失うことへの恐れ、自尊心喪失の恐れが、嫉妬の生起プロセスに関係している可能性が示唆された。また、男女での差を見ると、すべての場面において女性のほうが男性よりも高い得点となったことは、男性のほうが自我(プライド)を守る傾向が強いことや、対人関係は男性より女性にとって重要なものであることなどが考えられる。そして、調査対象者の平均年齢が 19.6 歳と低かったことが、交際経験や継続期間に嫉妬との関係が見られなかった原因だったのではないかと考えられる。

性×場面ごとの拒否の程度の認知

	場面 1	場面 2	場面 3	場面 4	場面 5
男	8.17 (4.65)	11.24 (4.60)	13.62 (5.06)	15.84 (5.73)	16.23 (5.00)
女	6.43 (3.91)	12.09 (4.13)	15.27 (4.55)	17.95 (4.75)	17.58 (4.72)

()内は標準偏差

